

序 文

「先生，“せき”だけが止まらないのです。」

この言葉を何度外来で耳にしたことでしょうか。難病ならまだしも“せき”すら止められない……医師としての無力感が心に去来します。そこで、胸部X線で明らかに異常がない“せき”を、プライマリ・ケアでどこまで鑑別できるのか、挑戦してみたくなりました。

本書は、必ずしもガイドラインやエビデンスに基づいたものばかりではなく、呼吸器専門医である筆者の経験に基づいたものや、現在進行形の研究内容も一部に取り込んでおり、最新の情報を記載しています（当然のことですが、1年経過すれば古い知識になっていたり、考え方が大きく変わり、これまでの記載が間違いになることもあります）。

今回、専門が異なるプライマリ・ケアでの診療や研修医の外来診療、さらにパラメディカルの研修の参考にもなるよう本書を企画しました。

筆者は外来で、まず初診時の問診や診察、各検査をきちんと行ったうえで、精密呼吸機能、気道過敏性試験、胸部CTなどの精密検査により仮の診断をつけ、さらに治療経過を確認しながら診断を確定させています。このような経験の積み重ねから、本書では上述の読者対象を念頭に、基本といえる初診時の問診や診察をはじめとした診断の流れから、治療方針の考え方に至るまで、できる限りわかりやすく解説しました。また、忙しい方にも要点をつかみやすいように、各項の冒頭にエッセンスやポイントをまとめる工夫を施しました。読者の皆様に手軽に読める本として活用いただけますと幸いです。

最後になりましたが、本書の企画から出版に至るまで御尽力いただきました南江堂の平野萌氏、矢崎純子氏に深謝いたします。

2016年8月



NPO 法人札幌せき・ぜんそくアレルギーセンター理事長
医療法人社団潮陵会 医大前南4条内科院長

田中 裕士